

「アメリカキューバ国交正常化の意味」

発表者：和田龍太 氏
株式会社三井物産戦略研究所
北米・中南米室 研究員

日時： 2015年10月2日（金）
15:00～17:00

会場： 広島大学東千田キャンパス
総合校舎A棟 403号室

司会： 友次 晋介（平和科学研究センター 准教授）

アメリカとキューバは2015年7月、国交を正常化させました。8月には現職としては70年ぶりにケリー国務長官がキューバを訪問しました。ピッグス湾事件や、核戦争の瀬戸際に至ったキューバ危機で鋭く対立し、以後断絶状態にあった両国が、なぜ今になって国交回復なのでしょう。この出来事は、グローバルな動きと連動しているのでしょうか。日本へのインプリケーションはあるとすればそれはなぜでしょうか、また完全な正常化に向けた課題は何が考えられるのでしょうか。シンクタンクでこの問題に詳しい和田龍太氏に議論頂きます。

和田龍太氏プロフィール



<経歴>

三井物産戦略研究所北米・中南米室研究員。1980年、神奈川県生まれ。筑波大博士（国際政治経済学）。ジョージワシントン大学シグナルセンター客員研究員、外務省専門調査員（在米国日本大使館・政務班）を経て、現職。2014年度より東海大学非常勤講師も兼務。

<著書・論文>

「オバマ米政権のアジア太平洋政策」『国際学のすすめ』（第4版）（東海大学出版、2013年）、
「中南米：再び成長軌道を描けるか？」（片野修氏との共著）『戦略研レポート』（2012年）
雑誌『経済界』に「グローバルニュースの深層」に寄稿多数

[お問合せ]

広島大学平和科学研究センター
〒730-0053 広島市中区東千田町 1-1-89
TEL 082 542 6975
FAX 082 245 0585
E-mail: heiwa@hiroshima-u.ac.jp

